所沢市文化財情報紙

ところざわ文化遺産

令和 8 年(2026 年)
3 月発行

第 11 号

令和 7 年 6 月 20 日　鈴木家ゆかりの文化財 3 件を新たに指定

鈴木家は通称「鈴源」と呼ばれ、地域の中核的な役割を果たした名家です。下新井村・松井村時代から地域行政の役職を歴任し、所沢飛行場建設においては広大な土地を提供したほか、養蚕の近代化を先頭に立って進めた農家でもあります。今回、その鈴木家に伝わる貴重な資料 3 件を文化財指定しました。

1. 鈴木家（鈴源）の所沢飛行場と近代を語る資料

文書・写真及び絵葉書・書画類から構成される歴史資料で、飛行場建設に関わる文書や関係者が宿泊した記録、当時の古写真なども含まれています。更に下新井村・松井村時代からの町村行政等に関する文書に加え、養蚕の近代化を進めた資料も含まれており、松井地区はもとより所沢市の近代のあゆみを今に伝える貴重な資料です。

◆種別：有形文化財/歴史資料

◆員数：8,847 点（文書 7,727 点・写真及び絵葉書 485 点・書画類 635 点）

←文書･写真及び絵葉書･書画類の一部

2. 鈴木家（鈴源）の生業と社会生活を語る民具

鈴木家の暮らしや生業、折々の行事や儀礼、信仰、地域社会での役割、所沢飛行場との関わり等を示す貴重な資料です。

特に「養蚕用具」と「染織用具」は、コレクションとして体系化するに見合うほど、点数及び種類が揃っており充実しています。

◆種別：有形民俗文化財

◆員数：848 点

養蚕用具で、羽化した蛾が繭を食い破らないよう、高温で熱して乾繭（かんけん）にする殺蛹器（さつようき）➡

3. 石川文松筆　琴棋（きんき）書画図襖絵

琴棋書画とは中国においての士太夫、文人の嗜みとされた四芸を表したもので、古来漢画の画題として愛好されました。作者の石川文松（いしかわぶんしょう）は谷文晁（たにぶんちょう）に師事した郷土の絵師で、複数の作品が市の指定文化財となっています。所沢ゆかりの画家の技量の高い作品として貴重です。

◆種別：有形文化財/絵画

◆員数：　4 枚

揮毫（きごう）図（絵画や書を嗜む様子）

※新指定のうち所沢飛行場に関係する資料などは、令和 8 年度の「所沢市文化財展」において公開を予定しています！

所沢市指定文化財「鈴木家（鈴源）の所沢飛行場と近代を語る資料」から

所沢飛行場の歴史を語る資料

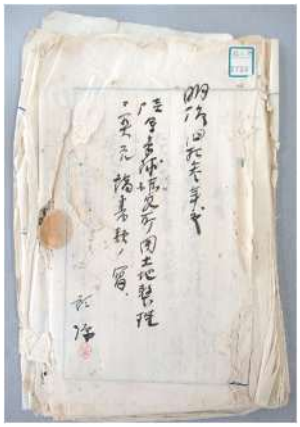
鈴木家の資料群のなかで最も特徴的な資料は、明治 44(1911)年 4 月に開設された所沢飛行場関連の資料です。鈴木家は飛行場用地のうち松井村分の筆頭地主として土地を陸軍に提供し、同時に当時の 13 代源一が在郷軍人会松井村分会長であったことから、その後も飛行場と関わり続けた家でした。

一方で鈴木家は村会議員、村助役、村長を務めている名家であり、近隣で最も所沢飛行場との関係が強かった家といっても過言ではありません。

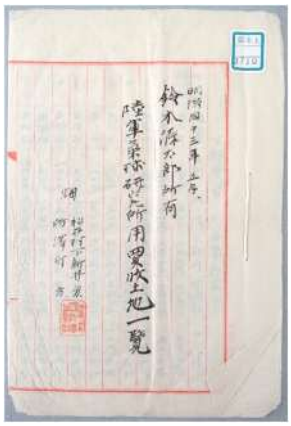
そのため鈴木家には所沢飛行場関係資料がまとまって残されており、それらは多岐にわたっています。以下、古文書、絵葉書、写真、書画類の種類別にして、それぞれ代表的な資料を紹介します。

古文書では、所沢飛行場・在郷軍人会・兵事に関する資料が 1,200 点余あります。たとえば明治 43(1910)年の「陸軍気球研究所用土地整理に関する諸書類の写し」や「陸軍気球研究所用地買収土地一覧」は飛行場用地の買上に関する一連の資料であり、松井村の対応が具体的にわかります。また、大正元(1912)年におこなわれた陸軍特別大演習での将校の村内宿割り図、翌 2(1913)年 3 月に起った木村・徳田両中尉の墜落事故に関わる葬儀や記念碑建設関係資料、そのほか飛行場拡張や飛行学校に関する資料等、所沢飛行場の歴史を語る資料として貴重な記録です。

次に絵葉書について、特徴的なものでは、大正 2 年 3 月の木村・徳田両中尉の墜落記念塔の完成を記念して発行された絵葉書、大正時代の「所澤飛行機観覧紀念」のスタンプのある「飛行機より撮影した所沢航空大隊全景」、



古文書　明治 43 年 陸軍気球研究所用土地整理に関する諸書類の写し



古文書　明治 43 年 陸軍気球研究所用地買収土地一覧

古文書　大正元年 陸軍特別大演習の時の松井村宿泊略図

絵葉書「故木村中尉」　　絵葉書「故徳田中尉」

我が国初の飛行機墜落事故で亡くなった両中尉を偲んで制作された絵葉書の一部

大正 13(1924)年の「日本訪問仏機所沢着陸記念」絵葉書、ほかにカラー刷りのデザインに写真を嵌め込んだ絵葉書などもあります。当時の絵葉書は情報紙の役割も果たしていました。

写真では、アンリ・ファルマン機とブレリオ機が写った写真が残されており、大正元年前後の撮影と推定されます。また、繋留気球やモーリス・ファルマン機など飛行機や飛行風景も当時の様子を伝える貴重な写真です。このほか、大正 3(1914)年の第一次世界大戦凱旋記念、昭和 4(1929)年の木村・徳田両中尉墜落記念塔の移設記念は、歴史的な記録写真といえます。

最後に、書画類に関しては、臨時軍用気球研究会会員をはじめ開設当時の関係者の揮毫書幅が特徴的です。長岡外史、田中舘愛橘、井口在屋、中村精男、徳川好敏といった当初会員と、その後加わった横田成年、井上幾太郎の揮毫書幅があります。また、田中舘とともにローマ字の普及に尽力した田丸卓郎や外国人技師のパーピス・フランク、所沢陸軍飛行学校長の荒蒔義勝、気球隊長の河野長敏の揮毫書幅も入れると所沢飛行場関係者だけで 20 点に及びます。これらの書幅は鈴木家に立ち寄ったり宿泊したりした際に揮毫してもらったものと伝えられています。彼らの書には、大空に飛ぶ憧れや冒険心、科学する心、期待感が表されていて、日本航空史の黎明期における関係者の心情を伝えた貴重な資料といえます。

所沢市に「航空発祥の地」（市指定文化財）がありますが、その言葉だけでは漠然としていて実感がわきません。鈴木家資料によって飛行場ができていく過程、陸軍や飛行場とのつながり、関係者との親交等がわかり、地域がどう関わったかを知ることができます。新たに指定されたことにより、今後これらの資料を使った研究が更に深まることと思います。

絵葉書　大正元年「陸軍特別大演習」シリーズ・スタンプ付

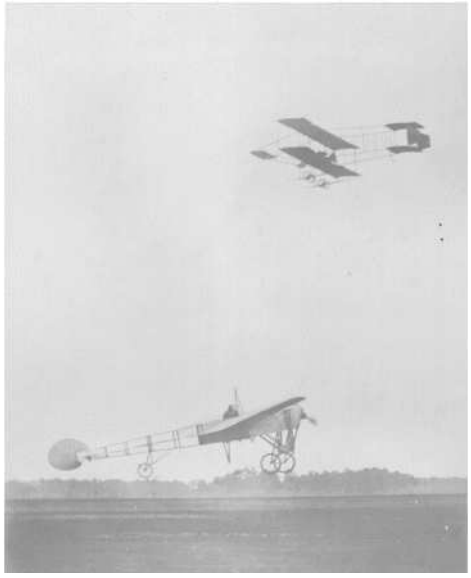


写真　アンリ・ファルマン機（上）とブレリオ機

書画類　横田成年書「飛機摩天」（機は摩天に飛ぶ）

書画類　田中舘愛橘書「鵬翼伸東天」（鵬翼は東天に伸びん）

歴史的建造物整備活用事業

国登録有形文化財「秋田家住宅」を整備・活用することによって、「所沢のまちば」の歴史・文化を伝え、「ふるさと所沢」を愛する心を育てることを目的として進めています。併せて、様々な活動の展開を通じて日常的に市民が交流する空間の創出や、所沢駅周辺から西所沢エリア及び航空公園エリアなどへの回遊拠点のひとつとして、地域の商業や観光の活性化にも寄与することを目指しています。

令和 7 年度は、第 29 回とことこタワーまつり（5 月 11 日）と連携した特別公開のほか、所沢市制施行 75 周年記念「ところざわまつり」において、寿町町内会の会所としても活用しました。

このほか、次のような事業を進めています。

「所沢市歴史的建築物の保存及び活用に関する条例」の制定

国登録有形文化財「秋田家住宅」を整備・活用するため、令和 7 年 12 月所沢市議会において「所沢市歴史的建築物の保存及び活用に関する条例」制定を議案として提出し、市民文教常任委員会の審査を経て、全会一致で原案可決されました。

今後は、文化財としての価値を活かした整備を実施するため、条例に基づき所定の手続きを進めていきます。

「文化財保存修理事業 ～未来へ遺そう！ふるさと所沢の宝～」

「秋田家住宅」を後世に守り伝えるとともに、幅広く活用するため、「ふるさと応援寄附」へのご協力をお願いいたします。

所沢市ホームページ
ふるさと応援寄附
（ふるさと納税）

※市民の皆様のご寄附もお待ちしています。

基本設計の実施

「秋田家住宅」の整備活用を進めるにあたり必要となる、建築・構造・電気・機械などの基本設計図の作成や外構基本設計などを行いました。

「中心市街地街並み整備計画」に示す自主後退については、「秋田家住宅」の歴史的な価値を大切にしながら、敷地の有効活用という視点も踏まえて検討を進めています。

整備後は、これまでの限定的な公開から、整備活用基本方針において示した次の活用方針

①織物産業で栄えた明治・大正期の所沢のまちばの賑わいや魅力を今に伝える
②多世代型の交流拠点とする
③中心市街地の活性化や回遊性の向上を図る

を踏まえて、多くの市民の皆様に愛される建物になるよう事業を進めていきますので、ご理解とご支援をお願いいたします。

「秋田家住宅」離れイメージ図

今後のスケジュール

令和 8 年度に実施設計を行い、翌令和 9 年度から 4 か年をかけて整備工事を実施する計画です。

秋田家住宅の概要

建物のみどころなど詳細は所沢市ホームページをご覧ください。

編集・発行：所沢市教育委員会 文化財保護課　問い合わせ：☎ 04-2991-0308　✉ b29910308@city.tokorozawa.lg.jp